

氏名 澁谷 泰秀 (SHIBUTANI Hirohide)

所属 社会学部社会学科

職種 教授

生年月日 1959年2月1日

[学歴]

1977年3月 青森県立青森高等学校卒業
1981年3月 順天堂大学体育学部健康学科卒業
1983年3月 順天堂大学体育学部大学院修士課程・環境衛生学専攻 卒業
1985年5月 University of South Florida (Master of Art Program 卒業:
Master of Art (教育学修士)取得)
1994年12月 University of South Florida (Doctor of Philosophy Program 卒業
Doctor of Philosophy (学術博士・計量心理学)取得)

[学位]

1994年12月 Doctor of Philosophy (University of South Florida)

[職歴]

1990年4月 青森大学社会学部専任講師
1995年4月 青森大学社会学部助教授
2006年4月 青森大学社会学部教授
2009年4月 青森大学社会学部・社会学科長
2012年4月 青森大学・学長補佐
2016年4月 青森大学・学長補佐・社会学部長 兼任
2017年4月 青森大学・副学長
2017年4月 学校法人青森山田学園理事・評議員 (現在に至る)
2022年4月 青森大学・学監・附属総合研究所長 兼任
2023年4月 青森大学・学長 (現在に至る)

[受賞]

特記事項なし

[所属学会]

日本世論調査協会

[教育活動]

[担当科目]

社会学部：教育社会学、社会福祉調査の基礎、
総合経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部：教育方法学、教育原理、
教職総合演習

[教育指導に関する特記事項]

教職科目（教育方法学等）を担当して 32 年目であるが、最近の学生に対しては講義だけでは十分な学習効果が望めない為、パワーポイントや演習型のハンドアウトを自作し、ある程度講義が進行した段階で学生がその講義の復習をハンドアウトにショートアンサーを書き込む事でできるようにしている。また、講義後に学生が自宅で学習できるように、ハンドアウトの内容を工夫している。しかし、講義中に全ての学生が少なくともショートアンサーを要求された部分については理解できるのが利点である。学生の授業評価で効果を確認している。

[研究活動]

[研究テーマ]

(1) 項目反応理論、(2) 詐欺被害者の心理プロセス、(3) フレーミング効果のメカニズム、(4) 生活の質と高齢者の意思決定方略、(5) 質問紙と Web を用いた社会調査法の比較及び計量分析、(6) 脳の血流と運動及び心理機能との関連性

[著書、論文、総説] 過去 15 年程度

1. 澁谷泰秀・関智子・櫛引素夫・松本大吾「大学の遠隔授業等の根本的改善に必要な視点－留学生への遠隔授業及び認知科学的視点-」、青森大学附属総合研究所紀要、23 (2)、40－54, 2022.3
2. Hiura, M., Shirai, Y., Shibutani, H., Funaki, A., Takahashi, K., Katayama, Y. (2022). Estimation of cerebral hemodynamics and oxygen metabolism during various intensities of rowing exercise: an NIRS study, *Frontiers in physiology*, Original research published:02 March 2022, doi:10.3389/fphys.2022.828357; http://journal.frontiersin.org/article/10.3389/fphys.2022.828357/full?utm_source=Email_to_authors&utm_medium=Email&utm_content=T1_11.5e1_author&utm_campaign=Email_publication&field=&journalName=Frontiers_in_Physiology&id=828357
3. 渡部 諭, 澁谷泰秀, (2021), 「高速俊約決定木による特殊詐欺抵抗力の判定」, 『データ分析の理論と応用』, 10 (1), 1-6.
4. 櫛引素夫・松本大吾・澁谷泰秀 (2021). 「青森大学におけるオンライン授業の課題と可能性－社会学部における実践から－」, 『青森大学附属総合研究所紀要』, 23 (1), 11-21.
5. 渡部 諭, 澁谷泰秀, (2021), 「特殊詐欺抵抗判定改良の試み」, 『秋田県立大学総合科学研究学報』, 第 22 号, 1-6.
6. 澁谷泰秀, (2020), 「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」の取り組み内容について, 『国民生活研究』, 60 (1), 29-51
7. 澁谷泰秀・吉村治正, (2020) 「社会調査における測定誤差源としての感情置換：特殊詐欺に関する内閣府調査に焦点をあてて」, 『青森大学附属総合研究所紀要』, 20 (1・2), 14-25.

8. 渡部諭・澁谷泰秀, (2019)「『詐欺脆弱性判定アプリを用いた特殊詐欺防止活動』, 警察学論集, 72 (11) , pp. 112-135.
9. 澁谷泰秀・吉野諒三・渡部諭・角谷快彦・藤田卓仙・小出哲彰・田中康裕・大工泰裕, (2019), 「社会調査データに基づく特殊詐欺脆弱性判定の試み」, 『よろん 日本世論調査協会報』, No .123, 40-49.
10. 澁谷泰秀・渡部諭, (2019)「高齢者の詐欺脆弱性と生活の質との関連性：性別による関連性の相違」, 『青森大学附属総合研究所紀要』, 20(1・2), 30—38.
11. 渡部 諭・岩田 美奈子・上野 大介・江口 洋子・小久保 温・澁谷 泰秀・大工 泰裕・藤田 卓仙, (2018), 「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」, 秋田県立大学ウェブジャーナル A (地域貢献部門) 第 5 号 pp.64-72.
12. 渡部 諭・澁谷 泰秀・鈴木康弘, (2017). PISA (学習到達度調査) 2012 における特異項目機能の分析, 秋田県立大学総合科学研究彙報, 18, 1-8.
13. 大工泰裕・渡部諭・岩田美奈子・成木迅・江口洋子・上野大介・澁谷泰秀 (2018). 「詐欺被害防止のための取り組みの変遷と心理学の貢献可能性—米国における詐欺研究との比較を通して—」, 『対人社会心理学研究』, 18, 179-188.
14. 澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温, (2016)「肯定的項目と否定的項目の混在が尺度に及ぼす影響：項目反応理論による社会調査データの分析」, 『青森大学附属総合 研究 所紀要』, 17(2), 1—13.
15. 澁谷 泰秀・鈴木康弘・渡部 諭, (2017)「学修評価における関心・意欲・態度の測定の補助的情報としての生徒児童の生活の質及び社会的逸脱に関する考察—古典的テスト理論と項目反応理論の応用—」, 『青森大学附属総合研究所紀要』, 19 (3), 1-22.
16. 渡部 諭・澁谷 泰秀・吉村 治正・小久保 温, (2015). 「Taxon 分離を用いた特殊詐欺被害脆弱性の分析」(査読付), 『秋田県立大学総合科学研究彙報』 第 16 号, pp.1-9.
17. 渡部 諭・荒樋 豊・澁谷 泰秀・吉村 治正・小久保 温, (2015)「高齢者における詐欺犯罪に対する脆弱性—分類分析を用いて—」, 『秋田県立大学ウェブジャーナル A (地域貢献部門)』 第 2 号 pp.61-71
18. 渡部 諭・澁谷 泰秀・吉村 治正・小久保 温, (2015)「秋田県在住高齢者の振り込 め詐欺脆弱性の分析」, 『秋田県立大学ウェブジャーナルA』, 第 3 巻、pp.77- 85
19. 澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温・柏谷 至・佐々木てる・中村和生・木原博, (2015)「ウェブ調査と郵送調査の直接比較 — 同一サンプルを用いた回答者特性及び自己効力得点の比較 —」, 『青森大学附属総合研究所紀要』第 17 巻 1 号、2015 年 9 月, pp.1-22.
20. 澁谷 泰秀・吉村 治正・渡部 諭・小久保温 (2014). 「肯定的項目と否定的項目が社会調査データの分析に及ぼす影響：古典的テスト理論を用いた分析」, 『青森大学附属総合研究所紀要』, 16(1), 1—13.
21. 小久保 温・澁谷 泰秀・吉村 治正・渡部 諭 (2014). 「社会調査における郵送とマルチデバイス Web アプリケーションの比較」, 『青森大学附属総合研究所紀要』, 15 (1), 6—9.
22. 吉村 治正・小久保 温・澁谷 泰秀・渡部 諭 (2014). 「社会調査の入力ミスの発生率について」, 『青森大学附属総合研究所紀要』, 15 (1), 1—5.

23. 澁谷 泰秀・渡部 諭 (2013) 「高齢者の社会情動的選択性とリスク志向性が生活の質に及ぼす影響」, 『青森大学研究紀要』, 16(2)、pp9-32.
24. 小久保温・澁谷泰秀・吉村治正・渡部諭 (2013). 「Web 社会調査のためのマルチ・バイスに対応したユーザー・インターフェイスの設計」 青森大学・青森短期大学研究紀要, 35(3):115-128.
25. 中村和生・柏谷至・澁谷泰秀・佐々木てる (2013) 「「フレーム」概念の検討—環境配慮行動の分析にむけて—」, 『青森大学・青森短期大学研究紀要』, 35(3), 73-94.
26. 渡部諭・澁谷泰秀, (2013) . 『振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究—社会情動的選択性理論からの認知心理学的研究—』公益財団法人三井住友財団助成研究, 2012 年度報告書, 1—25.
27. 澁谷泰秀・渡部諭 (2013) , 「高齢者犯罪を防止するための再帰属プログラムの開発・研究」, 『公益財団法人三菱財団助成研究, 2011 年度報告書』, 1—19 (2013).
28. 渡部 諭・澁谷泰秀, (2012). 「犯罪被害に遭いやすい高齢者の認知バイアス- 高齢者はなぜ犯罪に狙われやすいか」, 『社会安全研究財団 2010 年度助成研究最終報告書』, A4 版 23 ページ, 2012 年 1 月提出.
29. Watanabe, S. & Shibutani, H. (2012). Interactions between Risky Choice Framing Effect and Risk-seeking Propensity, 『秋田県立大学総合科学研究彙報』, 13,9-20.
30. 澁谷泰秀・渡部諭, (2012). 「高齢者における自己効力と詐欺犯罪被害傾向及び生活の質との関連性：高齢者の未来展望からの示唆」, 『青森大学・青森短期大学研究紀要』, 35 , 181-202.
31. 澁谷泰秀, (2011). 「余暇満足度の妥当性評価: QOL 尺度の下位尺度としての余暇満足度」, 『青森大学・青森短期大学研究紀要』, 34 , 121-163.
32. Shibutani, H. & Watanabe, S., (2011). A comparison of binary and polytomous IRT models in terms of the amount of information extracted from items in a risk-seeking propensity scale, *Journal of Aomori University and Aomori Junior College*, 34, 165-181.
33. 澁谷泰秀・渡部諭, (2011). 「詐欺犯罪被害傾向と生活の質: 高齢者と若年成人との比較」, 『青森大学・青森短期大学研究紀要』, 第 34 巻, 89-112.
34. Shibutani, H. & Watanabe, S. (2010). An application of classical test theory, item response theory, and partially ordered scalogram analysis for evaluating the scalability of the risky-seeking propensity, *Journal of Aomori University and Aomori Junior College*, 33, 49-70.
35. Watanabe, S., and Shibutani, H., (2010). Aging and decision making: Differences in susceptibility to the risky-choice framing effect between older and younger adults in Japan, *Japanese Psychological Research*, 52(3).
36. Shibutani, H. and Watanabe, S., (2009). Risky-choice framing effect and risk-seeking propensity: An application of IRT for analyzing a scale with a very small number of items, *Aomori University and Aomori Community College Academic Journal*, 32, 2, 65-80.

[学会発表] 過去 15 年程度

1. 澁谷泰秀, 日本犯罪心理学会, シンポジウム「詐欺脆弱性と詐欺犯罪に関する諸問題の検討」, 日本犯罪心理学会第 60 回大会, 名古屋大学 (愛知県・名古屋市), 2022 年 9 月 3 日
2. 澁谷泰秀, 高齢者認知心理学者, 詐欺抵抗に関する諸問題の検討: 詐欺脆弱性判定から詐欺抵抗の向上へ, 日本心理学会第 83 回大会, 立命館大学 (大阪府・茨木市), 2019 年 9 月 25 日.
3. 澁谷泰秀, 高齢者認知心理学者, データに基づいて特殊詐欺の原因を分析し対策を議論する: 詐欺脆弱性判定の試み及び実用性の評価, 日本心理学会第 82 回大会, 東北大学 (仙台), 2018 年 9 月 25 日.
4. 澁谷泰秀, 社会調査データに基づく特殊詐欺脆弱性判定の試み, 日本世論調査協会 2018 年度研究大会, 同志社大学東京サテライトキャンパス, 2018 年 11 月 9 日.
5. 小久保 温・澁谷 泰秀・吉村 治正・渡部 諭, (2017). 「社会調査における郵送による質問紙と Web アプリケーションの比較」, 情報処理学会 第 79 回 全国大会 (名古屋大学), 2017 年 3 月 18 日.
6. Shibutani Hirohide, (2016). A relationship between the vulnerability for bank transfer fraud and self-efficacy among elderly people, 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.
7. 吉村治正・澁谷泰秀 (2015). 『項目のワーディングが尺度に及ぼす影響』日本心理学会第 76 回 大会, 2015 年 9 月 25 日, 名古屋大学.
8. Watanabe, S., Shibutani, H., Yoshimura, H. & Kokubo, A. (2014). Analysis of personal networks maintained by the elderly in Japan, 2014 Asian Network for Public Opinion Research Annual Conference, Toki Messe Niigata, Nov. 26, 2014.
9. 渡部諭・澁谷泰秀・吉村治正・小久保温 (2014). 「高齢者の詐欺犯罪脆弱性についての taxometric 分析」, 日本認知科学会第 31 回大会, 2014 年 9 月 19 日, 名古屋大学東山キャンパス.
10. 澁谷 泰秀・渡部 諭・吉村 治正・小久保 温 (2014). 「項目のワーディングが尺度に及ぼす影響: 項目反応理論と古典的テスト理論を用いた社会調査データの分析」, 日本テスト学会第 12 回大会, 2014 年 8 月 31 日, 帝京大学.
11. 小久保温, 澁谷泰秀, 吉村治正, 渡部諭, (2014). 「郵送とマルチデバイス対応 Web システムによるハイブリッド社会調査の実証実験の解析」, 情報処理学会 第 76 回全国大会, 3 月 11 日, 東京電機大学.
12. 小久保温, 澁谷泰秀, 吉村治正, 渡部諭, (2014) 「郵送とマルチデバイス対応 Web システムによるハイブリッド社会調査の実証実験の解析」, 情報処理学会 第 76 回全国大会, 3 月 11 日, 東京電機大学.
13. 渡部諭・澁谷泰秀 (2013). 「高齢者の詐欺犯罪脆弱性に関する taxometric 分析」, 人

工知能学会研究会, 2013 年 12 月 22 日, 岩手県立大学.

14. 渡部諭・澁谷泰秀 (2013). 「若年者および高齢者における振り込め詐欺被害傾向の相違について-taxometric method による分析」, 日本認知科学会第 30 回大会, 2013 年 9 月 23 日, 玉川大学.
15. 澁谷泰秀・渡部諭・吉村治正 (2013). 「高齢者のフレーミング効果と意思決定モード: 項目反応理論と古典的テスト理論の相補的活用」, 統計関連学会, 2013 年 9 月 11 日, 大阪大学.
16. 渡部諭・澁谷泰秀 (2013). 「Taxometric 分析を用いた振り込め詐欺に対する高齢者の脆弱性の検討」, 日本行動計量学会第 41 回大会, 2013 年 9 月 5 日, 東邦大学.
17. 小久保温・澁谷泰秀・吉村治正・渡部諭 (2013). 「社会調査のためのマルチデバイス Web アンケートシステムの開発」情報処理学会第 75 回全国大会, 2013 年 3 月 7 日, 東北大学.
18. 澁谷泰秀・渡部諭, (2013). 「詐欺犯罪被害傾向と意思決定モード」認知心理学会高齢者心理研究部会第 7 回研究会, 2013 年 2 月 19 日, 明治学園大学.
19. 澁谷泰秀・渡部諭, (2012). 『高齢者における詐欺被害傾向と未来展望の関連性』日本認知科学会第 29 回大会, 2012 年 12 月 13 日, 東北大学.
20. 渡部諭・澁谷泰秀, (2012). 『高齢者の詐欺被害傾向と未来展望の検討』日本行動計量学会第 40 回大会, 2012 年 9 月 16 日, 新潟県立大学.
21. 渡部諭・澁谷泰秀, (2012). 『高齢者の詐欺被害傾向と未来展望』日本心理学会第 76 回大会, 2012 年 9 月 11 日, 専修大学.
22. 澁谷泰秀, 渡部諭, (2011). 『回答者のリスク志向性がフレーミング効果に及ぼす影響の評価』, 2011 年統計関連学会連合大会, 九州大学, 2011 年 9 月 5 日.
23. 渡部諭・澁谷泰秀, (2011). 『積極性効果が高齢者のウェブ探索行動とウェブ上の意思決定に与える影響』日本行動計量学会第 39 回大会, 2011 年 9 月 14 日, 富山理科大学.
24. 澁谷泰秀, 渡部諭, (2010). 『項目反応理論による情報関数とクロンバックの α による尺度の信頼性評価』, 統計関連学会連合大会, 早稲田大学, 2010 年 9 月 5 日.
25. 渡部諭・澁谷泰秀, (2010). 『意思決定方略に対する年齢の影響と生活の質 (QOL) 調査データの分析』日本行動計量学会第 38 回大会, 2011 年 9 月 14 日, 埼玉大学.
26. 澁谷泰秀, 渡部諭, 『社会調査における測定と誤差 - 計量心理学的視点 -』, Japanese General Social Survey Study Session, 大阪商科大学, 2010 年 3 月 28 日.
27. 渡部諭, 澁谷泰秀, (2010). 『意思決定方略における年齢による相違と生活の質 (QOL)』, 日本認知心理学会 (高齢者心理研究部会第 4 回研究会), 東京都健康長寿医療センター研究所, 3 月 27 日.

[外部研究費の取得状況；過去15年程度]

1. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 澁谷泰秀(代表研究者), 「社会心理学を応用した詐欺脆弱性判定アプリを用いた詐欺被害予防の研究」2023年4月～2026年3月, 4,420千円 (総額).
2. カゴメ株式会社との共同研究 (2022年4月1日～2023年3月31日)「野菜摂取量推定装置の測定を促進するための行動経済学的検討」研究担当者：澁谷泰秀、竹林正樹 (客員教授) 1,000千円 (概算総額)
3. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 B), 2022年4月～2025年3月, 吉村治正 (代表研究者)・澁谷泰秀 (分担研究者)「社会学と社会心理学の協働によるウェブ調査の偏りの補正方法の研究」19,950千円 (総額)
4. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 B), 2018年4月～2021年3月, 吉村治正 (代表研究者)・澁谷泰秀 (分担研究者)「内閣府世論調査の測定誤差の研究」19,850千円 (総額)
5. JST/RISTEX「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域研究開発プロジェクト「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」プロジェクト, 研究開発プロジェクト代表 (渡部諭), 青森フィールド代表 (澁谷泰秀), 2017年10月～2021年3月, 24,000千円 (青森大学担当部分の総額)
6. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 澁谷泰秀(代表研究者), 「高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究」2015年4月～2018年3月, 4,600千円 (総額).
7. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 吉村治正(代表研究者), 澁谷泰秀 (研究分担者)「社会学的知見に基づく Web 調査の代表性の分析」2015年4月～2018年3月, 4,800千円 (総額).
8. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 小久保 温(代表研究者), 澁谷泰秀 (研究分担者)「郵送調査と Web 調査のハイブリット調査から完全 Web 調査への移行に関する研究」2014年4月～2016年3月, 4,600千円 (総額).
9. 日工組社会安全財団 研究助成研究助成『振り込め詐欺脆弱性についての高齢者の認知特性に関する taxometric 分析』(研究代表者：渡部諭 秋田県立大学、研究分担者：澁谷泰秀) (2014年4月～2016年3月)2,700千円 (総額)
10. 公益財団法人 大川情報通信基金研究助成 『CASM を応用した WEB 社会調査における PC、タブレット、スマホ、携帯電話を用いた反応の相違に関する研究』(代表研究者 澁谷泰秀：青森大学) (2014年4月～2015年3月) 1,000千円 (総額)
11. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 柏谷 至(代表研究者), 澁谷泰秀 (研究分担者)「環境配慮行動委における文化的フレームと意志決定モデルとの統合的アプローチ」2012年4月～2015年3月, 4,800千円 (総額).
12. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 渡部諭 (代表研究者)・澁谷泰秀・吉村治正「社

会情動的選択性から見た高齢者のソーシャルネットワークの研究」2012年4月～2015年3月, 4,680千円 (総額).

13. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 2011年4月～2014年3月, 吉村治正 (代表研究者)・澁谷泰秀・渡部諭「郵送・インターネットによる実験的な職歴調査の実施」5,200 千円 (総額).
14. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C), 2011年4月～2014年3月, 澁谷泰秀 (代表研究者)・吉村治正・渡部諭「高齢者の社会情動的選択性とリスク志向性が及ぼす生活の質への影響」, 4,680千円 (総額).
15. 公益財団法人三菱財団研究助成, 澁谷泰秀 (代表研究者)・渡部諭「高齢者犯罪を防止するための再帰属プログラムの開発・研究」2009年11月～2012年10月, 1,800千円 (総額).
16. 公益財団法人 三井住友財団助成研究, 渡部諭 (代表研究者)・澁谷泰秀「振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究—社会情動的選択性理論からの認知心理学的研究—」2011年4月～2013年3月, 600千円 (総額).
17. 文部科学省科学研究費 (基盤研究 C) 『高齢者の意思決定特性と QOL との関係の研究』(代表研究者 渡部諭: 東北芸術工科大学) 研究分担者 (2008年4月～2011年3月) 4,680千円 (総額).
18. 財団法人 吉田秀雄記念事業財団『社会情動性選択理論に基づく高齢者のウェブメディア・リテラシーに関する研究 —情動広告が高齢者に与える影響—』(代表研究者 渡部諭: 青森大学 (当時); 東北芸術工科大学) 研究分担者 (2009年4月～2011年3月) 3,424千円 (総額)
19. 財団法人 電気通信普及財団研究助成 『高齢者のウェブサービスとフレーミング効果 —これからの高齢者ネットリテラシーに期待するためには何が必要か—』 (代表研究者 渡部 諭: 青森大学 (当時); 東北芸術工科大学) 研究分担者 (2008年4月～2011年3月) 1,200千円 (総額)

[その他の活動]

青森新都市病院・研究倫理委員会委員